

令和3年度岩瀬きゅうり担い手育成事業研修成果報告書

研修生氏名： 高坂 和弘

1 研修動機

もともと、農業という業種には興味を持っていましたが、“食”に対する社会の関心の無さに、不安を感じるころもありました。須賀川市によるきゅうりの担い手育成事業を目にする機会があり、生産者としての関心を抱いて応募することを決意しました。

『岩瀬きゅうり』の名は以前から知るところでは有りましたが、何をもっての『岩瀬きゅうり』なのか？という疑問は常々持っており、是非須賀川市内で勉強し深めていきたいという思いがありました。そして研修を通して技術を身に付け、岩瀬きゅうりの名を広めていきたいという思いがありました。

2 研修生となって

(1) 初期

最初は作業に慣れるための実務経験から始まったと思います。1t車の運転感覚の会得から刈払機の操作と管理機の扱い方、トラクターとオプション機器の動作等々。圃場場所の把握などは慣れない地のため苦勞したのを覚えています。また、各々の基本動作の他に、使用上の注意すべき点やコツなんかも教えてもらった期間であったと思います。

(2) 中期

ア 露地栽培研修

佐藤孝一さんによる防虫ネット栽培方を目的とした研修をしていただきました。ハウス内に蜂を飼う事により、露地栽培よりも良い成果が覗える栽培方法であり注目されている技術であります。ハウス栽培(促成/抑制)や露地栽培にも承知しており総合的にきゅうり栽培方を教えてもらいました。また、稲作にも精通しており苗管理や田植え作業も指導して頂き、稲作からきゅうり作業へと移行していく様子は見事なものと感じた覚えがあります。

イ 公社業務研修

6月中旬には梅林公園にて敷地の草刈りと梅の実の回収がありました。梅林公園の管理作業(草刈り)やコンポスト用に梅の収穫作業を行い、加工までの事業の

流れを知ることができました。農業といった分野ではありますが、1次産業から3次産業までの関わり方があり、幅の広い事業内容が存在することを改めて認識できました。

(3) 後期

ア 露地栽培研修・施設栽培研修

福島タネセンターでは最新のきゅうり栽培法を勉強させていただきました。これは今まで知る技術とは異なり、栽培法も実証された新たな方法にて育成している施設でありました。将来的に確約される技術ではあるかと思いますが、勉強途中の私にはどこか遠い所の技術に感じえました。

小川明男さんの圃場ではハウス栽培法を学びました。研修では夏から秋にかけての、ハウス内の温度と湿度の管理や整枝の仕方、低温に対してのきゅうり育成方法を教えていただきました。また、きゅうり栽培終了後の土地の活用方法と管理についても教えていただき、冬場の所得を確保する方法も学ばせてもらいました。

イ 公社業務研修

1月は大豆を中心とした冬季の仕事の実例にあたりました。大豆は収穫してから仕分けと加工を行い、商品を作っていくという工程を学びました。小針幹雄さんのところでは“花き”として雪柳を扱っており、加工していく工程を学びました。

どちらも冬の時期に畑からの距離を置ける作業となります。大豆からはお菓子の豆菓子や味噌を作り、雪柳は正月飾りに加工され、春になるまでの貴重な時間を、商品の開発や提案提供という六次化事業にあて、加工を中心とした【作業の展開】への可能性を見出すことができました。

3 研修機関での研修

講師のもとでしっかりとした勉強を受けていない私にとって、農業短期大学の講義は価値のある資産となりました。

農業で使う道具は我流で扱うことはできますが、正しい使い方や間違った使い方、注意する点や応用編など細かに説明されて初めて理解できたというところもありました。基本動作や整備の仕方、そして安全確認など基本から教えてもらえることで、安

心して作業に望めます。トラクター大型特殊免許も、農業短期大学にてさせてもらうことで、取得できたところと考えます。基礎的な農作業研修や最新技術に触れられる機会も貴重な体験ですし、農業という専門的な分野の知識を(基本ではありますが)教えて頂けた機会に大いに感謝したいと思います。

4 研修を終えて(※研修期間全体を振り返って)

きゅうり担い手育成プログラムとは言え、それだけではなく農家に成るための多くの事柄を学ぶことができました。まずは農地の確保からです。作物には一本当たりの面積が決まっており、何をどの位?というところから使用面積が決まり、取得面積の大きさも定まってきます。次に作付けですが、きゅうり(他品目)はどのような作型か?それにより敷金なども変わってきます。技術面でも苗を植え、管理に収穫と、その場その場に適した知識と技能が必要とされます。他には農地の管理や機械の操作法、商品作りや販売方法など多岐にわたり学習する事ができました。それでもやはり研修内容は基本形にすぎないと感じています。ここから先も周りの先輩方達に教えをもらい、少しずつ成長していけたら良いかと考えます。これから後を進む(目指す)者があるのなら道を示せる者になりたいです。

5 就農展望

これから農業で生計を立てて行くという事には不安がありますが、一方では農作物を作って皆様に喜んでもらえる商品を提供し、自給自足な生活を営めればと夢んでいます。震災直後は食料不安になり第一次産業の大切さを皆が認識できたと思いますが、安定した食の提供は農業の果たすべき努めだと思っています。

今また価格の高騰が見受けられ悲しく感じるころでもあります。小さい土地ながらも、安定供給できる生産を目指して、皆様に安心して購入してもらえる商品作りは目標とするところです。展望としては徐々に土地を開拓して生産物の種類を増やし、行く行くは農業の楽しさを広めていける活動にも、歩みを進めていきたいと考えます。小さいころから親しんだ農業を仕事として、皆様の食に華やかさを届けていけたら幸せな職業だと感じています。